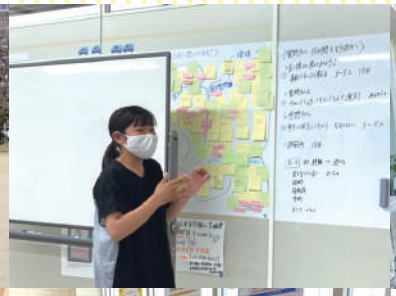
輝け！高大生！

ユースリーチ

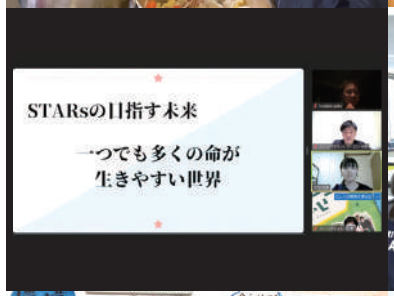
youth reach

みんなの一歩で、
魅力的な長野を
一緒につくろう！



自己実現 × 仲間づくり × 社会課題解決

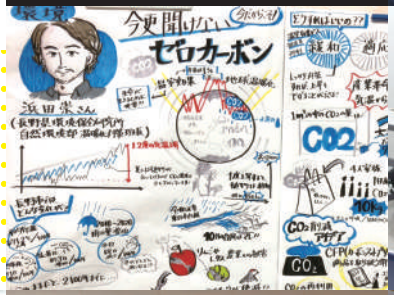
過去は
変えられないけれど、
今の行動が未来をつくる！

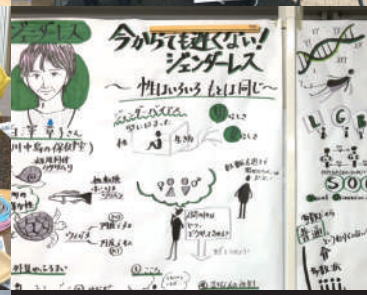


ユースリーチ とは？

youth reach

2016年にスタートした"若者が地域を元気にする"活動です。長野の高校生・大学生が学校の枠を超え「長野を少しずつ、もっと良くしたい」と、SDGs実現に向けたアクションプランを作成・実践しています。





Project ユースリーチが描く持続可能な未来 01

『あったかい居場所があったら、いいね♪』

新しい出会ってワクワクするよね。
新しい発見と、ひと・もの・コトの共有。学校の枠を超えて、視野が広がり選択肢が増えていく。ふだん出会わない人とつながったり、世代を超えてつながったり。みんなとつながれて、みんなとできることがある。みんなの「あったかい居場所」があれば、きっと社会も温かく暮らしやすくなるよね。

長野にある「まちの縁側」について教えてください

長野のまちにまちの縁側5,000箇所をめざしている「まちの縁側育みプロジェクトながの」事務局の西澤淑恵さんに聞きました。

Q.「まちの縁側」をなぜ広めようと思ったのですか？

縁側は家と庭をつなげる場所。昔は家に塀がなく誰でも気軽に行き来していました。ところが現代は、個人主義で孤立する人が増え、無縁社会と言われています。断ち切れてしまった人とのつながりを「縁側」でつなぎ直し、安心できる場所にしたいのです。

Q.「無縁社会」って悲しいですね

ひとりで寂しく暮らし、困っていることを言う相手もいない。知らないうちに餓死していても、いつ発見されるかわからない。そんな「人との縁がない人」が当たり前のようにいます。普段から誰かとつながっていれば、話を聞いて気にしてくれ、助けてくれる人がいます。

Q.「まちの縁側」はどこにあるのですか？

家の前にベンチを置いたり、大きな木の下にテーブルと椅子を置いたり、ガレージや庭先など余裕空間をみんなに開けば、そこが「まちの縁側」になります。

居場所は「場所」ではなく、想いとアイデアでつくる、ひと・もの・コトのつながり

【私たちのアクション】テーブルとイスを置こう!自分の好きなこと・できることを持ち寄って、誰もが気軽に立ち寄ってもらえる心地よい場所にしよう!いろんな人の話を聞いて、楽しそうなこと・おいしそうなことをいっしょにやってみよう!妄想会議を開いてみよう!

Project ユースリーチが描く持続可能な未来 02

『みんなで多文化共生できたら、いいね♪』

世界のみんなと仲良くしたい!
でも、実際はどうなのか知らないことばかり。海外から来ている「技能実習生」って、どんな仕事や暮らしをしているのだろう。海外から輸入されている農作物や製品は、どのような環境でつくられているのだろうか。環境や人権に配慮している会社や製品を選んで、お互いを認め合える関係をつくりたい!

長野県にいる「技能実習生」の状況を教えてください

松本市に拠点を置くNPO法人CTNの代表理事で、信州大学グローバル化推進センター教授の佐藤友則さんに聞きました。

Q. 技能実習生や外国人労働者は、どんな仕事や暮らしをしていますか？

中小の製造業で「技術力はあるが人手がない」というメーカーに多い。レタスやきのこ、りんごといった農産物栽培に関わる人もそれなりにいる。生活環境が悪いうえに金が貯まらず、単純作業で技術も身につかないといった問題がある。

Q. どのようなルートで日本にやってくるのですか？

各国の「送り出し機関」にお金を払って、日本へやってくる。貧しい家で育ち「親に楽をさせられる」とか、うまい話を聞かされて「よし、私も」と思うが、情報を全く持っていないので、だまされて来ている。

Q. 日本の「多文化共生」は、なにが問題ですか？

国にやる気がなく、公的な支援もない。まず「多文化共生基本法」を定め、入国管理と外国人の受入れ制度、教育とメディアを変えて、意識を変える必要がある。多様な考え方や行動様式を受け入れて、日本の発展につなげていく視点が大事。

外国由来の人々と対等な関係で、パートナーとしてつきあおう

【私たちのアクション】生活の中で出会う外国人の見方を変えよう!労働力の穴埋めではなく、ともに日本で暮らす地域のパートナー。自分が使っていたり、食べているものが、だれが・どこで・どのようにつくっているかを考えて選ぼう!毎日、4つ以上のソース（新聞、ネット、テレビなど）から、時間とエネルギーをかけて多様な情報を得よう!

Project ユースリーチが描く持続可能な未来 03

循環型のキャンプができたら、いいね♪

循環をテーマにしたキャンプをしよう!
キャンプしながら農作業して、収穫した作物を調理し、みんなで食べる。リンゴ狩りや草刈りでもいい。畑と食卓、自然と自分のつながりを見つけ、地域の人との出会いを楽しもう。持続可能な社会に欠かせない“循環”を体感し、得たものを語り合って共有し、感動を広げ、共感を呼びおこそう!

「天空の里 いもい農場」の活動を教えてください

長野市芋井地区で食農体験活動の場を作る、発足9年目の「天空の里 いもい農場」事務局長の西沢和宏さんに聞きました。

Q. 年間を通じてさまざまな楽しい活動があるそうですが?

昨年は15回開催して、のべ650人が芋井地区に集いました。遊休農地を活用した農作業を軸に、春の「野草の天ぷらをたべてみよう」から、竹を使ったクラフト、田んぼの生きもの探し、おやき作り、文字絵リンゴ作り、芋ほり、干し柿作りなど、普段体験できないような「楽しいこと」がいっぱいです。参加を通じて地域課題を共有する機会にもなっています。

Q. 農業体験活動に必要な条件ってあるのですか?

「トイレ・屋根のある休憩所・駐車場」の3つが必要だと思います。すべてが揃って豊かな活動ができます。幸い芋井地区には、地元で使われていない施設がありました。農業は人手ともいわれます。「無理せず、できる範囲」で実施することも、楽しく続けるための大事な条件です。

Q. 地域の人たちは活動をどのように見ているのでしょうか?

活動の様子を「活動通信」にまとめ、地域の回覧板を通じて発信をしています。多くの人が集まり、地域の賑わいにつながっていること、子どもが一人もいない限界集落に子どもたちの歓声が響き、励みになるとお声をいただいています。

地域に関わって活動し学ぶことで、楽しさとエネルギーを見つけよう

【私たちのアクション】いもい農場の活動に参加してみよう!ユースリーチのアイデアでコラボできることが、きっとある。地域の人たちと良好な信頼関係をつくって、地域の課題解決をいっしょに考えよう!楽しさを伝えれば、いっしょに取り組む人も増え、結果としてSDGsの目標達成にもつながっていく。

Project ユースリーチが描く持続可能な未来 04

みんなの思いもSDGsに入れば、いいね♪

SDGsのゴールって、なぜ17なのかな?
「なんか、おかしいな」と思う違和感がある。飼育放棄された犬や猫だって救ってあげたいけれど、SDGsは人間本位のゴールと誤解されている?
ジェンダー平等では、男性の視点が足りていないのでは?と思えることもある。
みんなの思いと考えも聞いて、自分たちのSDGsをまとめ、マスコミに発表したい!

SDGsに感じるモヤモヤを伝える方法を教えてください

信州大学教職支援センター准教授の荒井英治郎さんに聞きました。

Q. SDGsという枠組みがあるだけで満足している感じってありませんか?

目標を達成するという目的と、その手段がごちゃまぜになっていることがあるかも知れません。枠組みに満足し、まだ行動をはじめていない人もいるでしょう。だれに、どのような形で、共感を得るメッセージを送るかが問題です。

Q. 私たちのモヤモヤをどのように伝えたらいいのでしょうか?

自分たちの主張を相手に理解し納得してもらうためにも、SDGsが決められた背景や原点をもう一度確認してみることが必要です。「変だよ」と思うことには、「なにが」と「どういう点が」を順序立てて伝えること。人の心を動かすには、気持ちと情熱を込めることも大事です。

Q. モヤモヤの解決につながるような方法はありますか?

マインドマップは、さまざまな考えを見える化する手法のひとつ。多世代から、多様な立場の人から考えを聞いて、なるべく多くの視点を取り入れる。出された考えをつなぎ合わせたり、付け加えたりして、違和感や困り感といったモヤモヤをはっきりさせる。どう解決するかは、次の段階。もし困っていることがあるのなら、それをいっしょに解決する方法を考えるなど、まずできることから、やってみることです。

「やりたい」ことに向けて動き出すために、まずモヤモヤを見える化しよう

【私たちのアクション】「SDGsにモヤモヤしていませんか?」と問いかけてみよう。アンケートも効果的。企業には「SDGsの理解を深めるための学習機会を設けていますか?」、「職場の男女比率はどのくらい?」、「管理職に女性はいますか?」とか。みんなのモヤモヤをまとめて、マインドマップのような形で見える化しよう。そこからきっと次にやることが見えてくる。

2022 年度は、
「いもいリビングラボ」に参加し、
長野市芋井地区でみなさんと一緒に
森や畑で汗をかいたり、
サマーキャンプなどなど
楽しいことがたくさん！

学生発！ SDGs 実践のためのアクションプラン

ユースリーチ

youth reach

発　　行：ユースリーチ
運営主体：特定非営利活動法人長野県 NPO センター
長野県長野市高田 1029-1 TEL.026-269-0015　FAX.026-269-0016

独立行政法人環境保全機構地球環境基金の助成を受けて制作しました。

ユースリーチ：youth@npo-nagano.org

ウェブサイト　Facebook

詳しく知りたいと思った方、参加したいと思った学生、
いっしょに取り組みたいと思った団体や企業のみなさまも、
ホームページをご覧ください。